



東京工業大学博物館・百年記念館
Tokyo Tech Museum and Archives, Centennial Hall

沿革

・百年記念館について

東京工業大学百年記念館は、本学が創立100周年を迎えた1981（昭和56）年、「東京工業大学創立百年記念事業」の一環として計画されました。同事業にあたっては、本学の同窓会である社団法人蔵前工業会を母体とする募金会（土光敏夫会長）が結成され、卒業生や関係の諸会社から寄せられた基金によってその計画が進められました。当時の募金趣意書には、記念館設立の目的が以下のように書かれています。

「東京工業大学百年の歴史は、正にわが国工業の発展を支えた科学・技術の教育・研究の歴史そのものであり、（中略）その教育・研究に用いられた貴重な器材や文書・記録が数多く集積されています。これを体系的に整理し展示することは、たんに東京工業大学にとってだけでなく我が国全体の科学・技術の教育・研究の発展のため先人の果たした業績を明確にする意義をもつものであり、更にこれを踏まえて今後の一層の発展を図るための貴重な礎石となると考えます。そこでこの記念すべき創立百年の時期に当たり、正に『科学・技術の教育・研究百年』の業績の展示・保存を中心とする『百年記念館』を建設し、そこに現在における科学・技術の最先端の所産をも併せて展示して、東京工業大学の遠き将来に向けての一層の発展のための一大モニュメントとする計画であります。」（東京工業大学創立百年記念事業資金募金趣意書より）

このように、百年記念館は「科学・技術に関わる業績の保存と展示」を中心とした博物館を目指して計画がスタートしました。そして、先端の科学技術に取り組む態度を実社会で活躍されている先輩方との直接対話から学ぶ〈人からの伝承〉と、創出された技術や研究成果にある背景を具体的資料から学ぶ〈物からの伝承〉の2つをコンセプトの核と位置づけ、百年記念館が誕生しました。建物の意匠設計には篠原一男教授があたり、1986年10月に着工、1年後の1987年9月に竣工し、募金会からの東京工業大学への建物の寄附を経て同年11月に開館しました。

・東京工業大学博物館として

2011（平成23）年4月1日、「東工大らしさ」を集約し、学内外へ発信する拠点として「東京工業大学博物館」（博物館相当施設）が誕生しました。博物館では、東工大で生み出された教育と研究の歴史的成果を収集・保存するとともに、現在進行している様々な先端研究や社会への応用実績、本学卒業生の社会における成果についても調査・研究を行い、その価値を伝承しつつ社会に向けて広く発信することを目的として活動しています。

博物館では、歴史資料の収集展示に加え、東工大のさまざまな分野の研究成果について、実物や模型などの展示品を通じて理解していただけるように工夫しています。また、キャンパスツアーや科学実験、特別展示など、科学を通じた参加者の方々との交流も行っています。これらの活動は、博物館設立の源となった百年記念館における活動コンセプトに支えられ、引き継がれています。

そしてこれからも、近接する東工大蔵前会館（TTF）や図書館、2020年4月より、百年記念館4階を拠点室とする「未来社会DESIGN機構」と連携し、〈人〉や〈物〉からの伝承・交流を日常的に行うことで、本学ならびに地域における文化・科学技術に関する学術交流の中心拠点として活動していきます。



館内ガイド

東京工業大学百年記念館には、博物館展示室を中心に会議室や談話スペースがあります。

博物館の常設展示室は地階と2階にあり、自由にご見学いただけます。博物館の収蔵品には、東工大の教育や研究に活用されてきた貴重な機器・物品等をはじめ、卒業生や学外の研究者から寄贈された資料・作品等が多数あり、その種類は多岐多様に渡ります（下リスト参照）。常設展示室ではそれら所蔵資料の一部を展示公開しています。

展示室の他に、1階の天井の高いガラス張りの大空間は、企画展示やシンポジウムの会場として使われます。日常的には学生の自習や話し合いに最適なラーニングスペースとして利用されています。

3階にはフェライト記念会議室と談話室があり、中規模の会議や講演会、レセプション等の催しが行われます。天井の高い内部空間をハーフシリンダーが貫通する、前衛的でダイナミックな空間となっています。

4階のスペースは2020年4月より未来社会DESIGN機構拠点室として運用開始予定です（本学教職員限定の利用となります）。内部空間には、大岡山駅から本館へと伸びる屈曲したハーフシリンダーの形がそのまま現れています。

平野耕輔陶磁器コレクション

東工大卒の工芸家らの作品コレクション

ホログラフィー研究および作品コレクション

卒業生近藤茂制作絵画コレクション

正木退蔵資料

手島精一資料

森田清・西巻正郎研究室製作等真空管コレクション

平林金吾資料

谷口吉郎建築資料

清家清建築資料

篠原一男建築資料

東工大で使用された計測器・計算機コレクション

パーソンズタービン

可動する最古のスターリングエンジン

東工大で使用された紡織機コレクション



東工大歴史資料、手島精一、正木退蔵、和田小六資料等の展示



森田清・西巻正郎研究室製作等 真空管コレクション

東工大で開発された大型機械コレクション

古賀逸策水晶発振子研究資料

フェライト研究資料

和田小六を中心とする第二次世界大戦直後の東工大改革資料

ロボット研究コレクション

東工大設立時の建築物建設写真コレクション

古橋家文書資料

東工大歴史資料

東京高等工業学校学生ノート（仁木源吉氏他）コレクション

神原周関連コレクション

中田孝歯車研究資料

末松安晴・伊賀健一光通信研究資料

田中郁三光化学研究資料

ノーベル賞受賞資料

B1

特別展示室

Mon-Fri / 10:30-16:30 [入場無料]

【展示】

特別展示室A

①陶磁器研究コーナー：G.ワグネル、平野耕輔が指導的役割を担った陶磁器研究資料の紹介

②建築資料コーナー：谷口吉郎、清家清の建築の紹介と解説

③化学、化学工学研究コーナー：神原周のシンセン合成、内田俊一と化学工学科創設、星野敏雄・佐藤徹雄によるビタミンB2とウルソの工業的合成、光イオン化とレーザー光化学の研究、白川英樹による導電性高分子の発見と開発

④フェライト研究コーナー：加藤五郎・武井武とフェライト研究

⑤東工大で育った工芸デザインの先導者たちコーナー：中田清次・板谷波山・河井寛次郎・濱田庄司・芹沢銈介・各務鎮三・辻晋六・辻常陸・島岡達三・田山精一・加藤鈴・村田浩

⑥ノーベル賞コーナー

特別展示室B

⑦紡織機械コーナー：紡織（学科実験）工場で使用された繊維機械類（フラットカード機、豊和工業N型織機、大型毛織機ドブクロス、他）

⑧歯車研究コーナー：中田孝による歯車工学研究の紹介

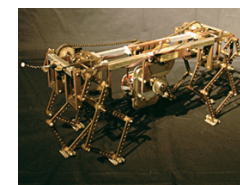
⑨ロボット研究コーナー：森政弘・梅谷陽二・広瀬茂男らによる研究の紹介と実物展示（GAWALK、ヘビ型ロボットACM-III、他）

⑩ホログラム展示コーナー：医療診断用立体視システムを始めとする本学のホログラフィー研究、卒業生や国内外の芸術家による作品コレクションの紹介

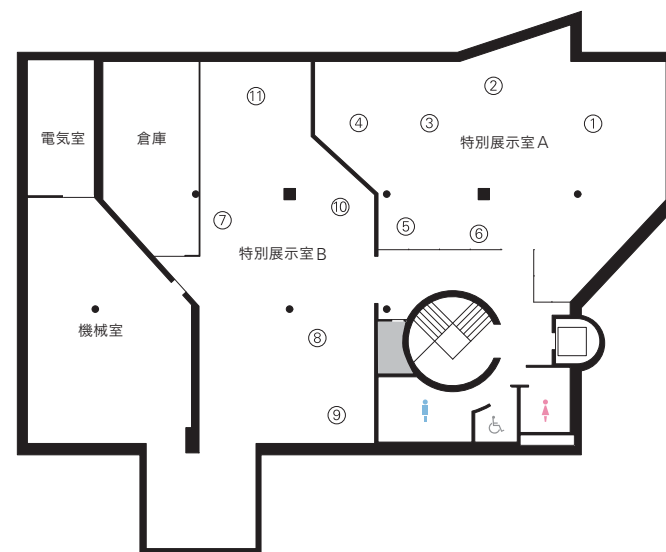
⑪世界的技術遺産コーナー：パーソンズタービン、可動する最古のスターリングエンジン、他



特別展示室A



左上／GAWALK 森政弘
左下／歯車研究 中田孝
上／陶試紅金魚 沼田一雅



1F ラーニング&インフォメーション・commons (T-POT)

Mon-Fri / 8:30-17:00

利用設備・備品については、最終ページ「おすすめツール紹介」をご覧ください。

収容人数：104人 飲食可

大学のインフォメーション機能を併せもつ活動的な学修スペースです。展示や研究発表、各種セミナー、ワークショップ等の場として利用できる空間であり、通常時は談話や授業外のグループワークとしてご利用いただけます。また学内情報を中心とした広報棚も設置されていますのでお気軽にご覧ください。

「T-POT」とは？

百年記念館1階がラーニングスペースとして生まれ変わる際の公募で、多数の応募の中から決定したネーミングです。

Tokyotech

People, Performance

Opportunity

Technology

それぞれの頭文字からとり、「人々がパフォーマンスを楽しみ、情報交換をしながら好機を得て、新技術をつくりだす場所」という意味が込められています。

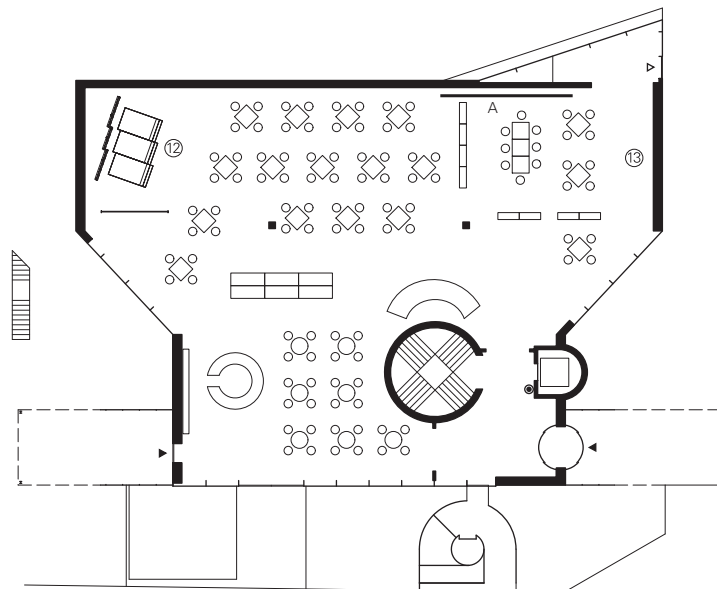


【展示】

⑫「アクエウスのつぶやき」(石井勢津子1995)

⑬「風景」(岡本陸郎1992-1993)

A「東京工業大学未来年表」：未来社会DESIGN機構のワークショップで作成した「東京工業大学未来年表」を紹介しています。未来を俯瞰できる装置としての「東京工業大学未来年表」の作成を通じて、「未来社会像」を検討していきます。



6/7

2F 展示室

Mon-Fri / 10:30-16:30 [入場無料]

【展示】

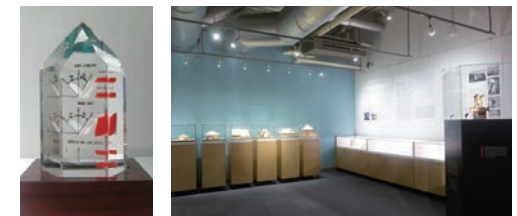
⑭東京職工学校創設～新制東工大の発展：明治14年に（中略）さらに大学昇格（昭和4）後、現在に至るまでの本学の沿革をまとめた年表と、創設期・変革期に活躍した3名の学長に関する資料を紹介しています。

- ・東工大年表
- ・手島精一：工業教育の基礎を築く
- ・正木退蔵：東京職工学校初代校長
- ・和田小六：終戦直後の日本の全大学の改革の先頭に立つ

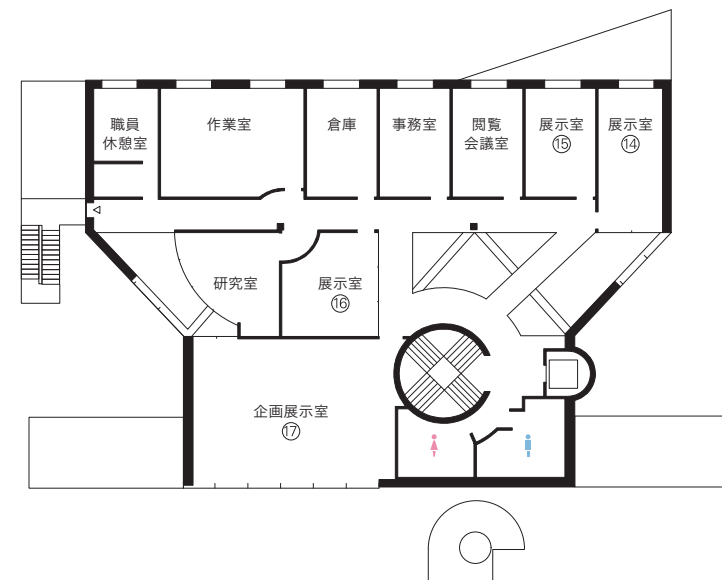
⑮電気～光／通信の先端研究史：東工大では1920年代末頃から今日にかけて、電波通信から光通信へと繋がる通信の先端技術に関する研究が続けられています。古賀逸策による高安定水晶発振子の発明など、本学で生まれた多くの歴史的成果を紹介しています。

⑯百年記念館／篠原一男：本学の創立100年を記念して設立された百年記念館の紹介と、その設計者である篠原一男の建築作品の模型を中心に展示しています。

⑰企画展示室：平成30年8月のリニューアルオープンより、ミニ企画展示やワークショップなどのイベント会場として多目的スペースに生まれ変わりました。



上／⑭
中左／⑮
中右／⑯
下／⑰



3F フェライト記念会議室

(要予約・有料)

談話室は、ご予約の方であれば自由にご利用いただけます。
施設利用については「利用案内」ページをご覧ください。

中規模会議、講演会などに利用できます。
(収容人数：76人、最大100人 飲食可)

駅から徒歩1分という好立地で中規模会議、講演会などにご利用いただける会議室です。手前にある談話室は受付や待合としても利用できます。風景を一望できるガラス張り、湾曲したハーフシリンドラーが突き抜ける天井が印象的な空間です。

「フェライト」とは

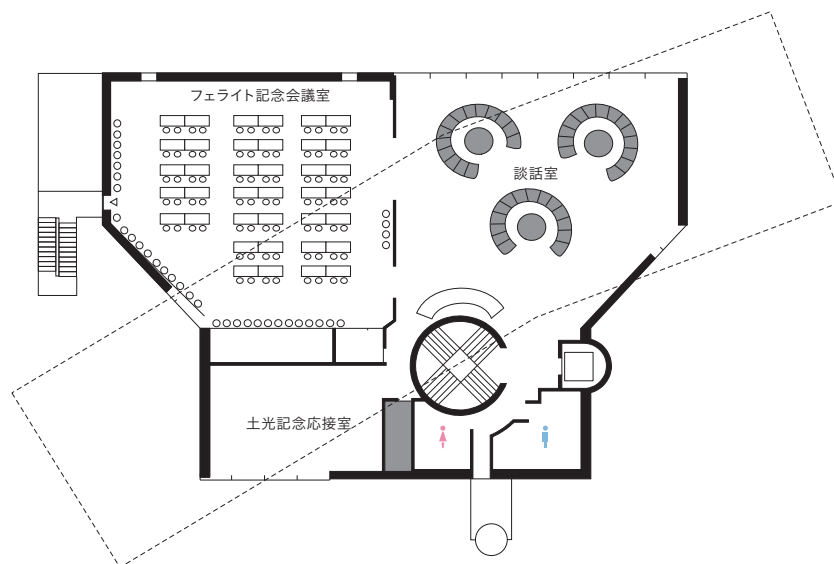
酸化鉄を主成分とする氧化物磁性材料であり、1930（昭和5）年に東工大で、加藤與五郎教授と武井武助教授が発明し特許を取得しました。最初に強力な永久磁石となるコバルトフェライトが合成され、次いで、優れた高周波磁心材料特性を有する「銅-亜鉛フェライト」が合成されました。東工大で生まれたフェライトはその工業化が卒業生らの手で行われ、社会に大きく貢献しました。このことを記念して、この会議室は「フェライト記念会議室」と命名されました。



フェライト記念会議室



談話室



8/9

4F 未来社会DESIGN機構拠点室

(旧ミーティングスペース)

百年記念館を特徴付ける大岡山駅側から本館方向まで伸びる屈曲したハーフシリンドラー。その内部が新しく未来社会DESIGN機構（DLab）の拠点室としてリニューアルします。（旧ミーティングスペース）

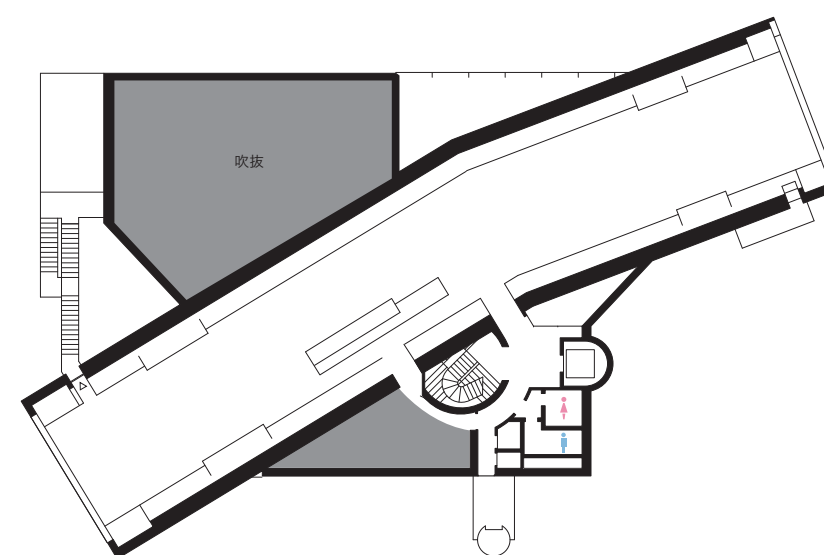
DLab活動における、本学研究者の対話や連携を促進する場として、さらなる活用が期待されます。
※DLab拠点室は、本学教職員のみ利用可能です。貸出は行っておりません。

「未来社会DESIGN機構（DLab）」とは

未来社会DESIGN機構（DLab）は、「人々が望む未来社会とは何か」を、社会の一員として考え、デザインすることを目的として2018年9月に設置されました。これからの科学・技術の発展などから予測可能な未来とはちがう、ありたい未来を、若者や企業、公的機関の方々なども含めた多様な人々と共に考える取組を行っています。2020年1月に発表した「東京工業大学未来年表」は、百年記念館1階に展示されておりますので、是非ご覧ください。



Copyright © KOKUYO CO.,LTD. ,2019.All rights reserved
※2020年3月下旬完成予定。上記は整備予定図となります。



利用案内

○東京工業大学博物館・百年記念館 月～金曜日 8:30～17:00（祝日、年末年始等の休館日を除く）

常設展示室	地下1階・2階	10:30～16:30	[入場無料]
ラーニング&インフォメーション・commons「T-POT」	1階	8:30～17:00	
フェライト記念会議室	3階		[要予約・有料]
未来社会DESIGN機構拠点室	4階		[本学教職員限定]

○1階 T-POT・3階会議室利用受付

博物館事務室 TEL：03-5734-2098（9:30～17:00）Mail：centjim@jim.titech.ac.jp

※利用の際の「使用責任者」は学内の教職員に限定させていただきます（学生、OBOG不可）

※4階は未来社会DESIGN機構にて利用しており、貸出は行っておりません。

本学教職員が利用される場合につきましては、未来社会DESIGN機構（Mail：lab4design@jim.titech.ac.jp）までお問い合わせ下さい。

	施設名称	部屋面積	定員数 (最大席数)	利用料金（1時間単位）		備考
				学内	学外	
1階	T-POT Aゾーン	81m ²	20	¥2,557		
	T-POT Bゾーン	100m ²	56	¥3,157		
	T-POT Cゾーン	42m ²	28	¥1,325		
	T-POT 全面	360m ²	104	¥11,366	¥22,732	
3階	フェライト記念会議室	364m ²	76（100）	¥11,492	¥22,985	前室の談話室を含む
	土光記念応接室 ※下記条件あり	60m ²	10（15）	¥1,894	¥3,829	（面積176m ² ）

《注意点》

- ・会議室は原則として教育・学術を目的とし、本学教職員、その他の学術団体等が主催する会合にご利用可能です（応相談）。
- ・1階はゾーン貸出が可能ですが、他のゾーンと完全に区切ることはできません。
- ・1階の学外貸出は全面使用の場合のみとします。
- ・3階の土光記念応接室の貸出は、フェライト記念会議室使用の場合のみとします。
- ・1階・3階の空き状況、詳細につきましては博物館ホームページにてご確認くださいか、博物館事務室までお問い合わせ下さい。

お問合せ・アクセス

○博物館・百年記念館

月～金曜日／9:30～17:00

TEL：03-5734-3340 / FAX：03-5734-3348

Mail：centjim@jim.titech.ac.jp

URL：http://www.cent.titech.ac.jp/

○資料館・公文書室

本館3階337号室（閲覧室・事務室）

月～金曜日／10:00～12:15・13:15～16:00

（入室は15:30まで）

TEL：03-5734-3347 / FAX：03-5734-3778

Mail：centshiryou@jim.titech.ac.jp

URL：http://www.cent.titech.ac.jp/

○すずかけ台分館総合研究館S1

（1階）（すずかけ台地区事務部

研究院支援課 研究院事務第2グループ）

月～金曜日／12:00～17:00

（受付は16:30まで）

TEL：045-924-5991

Mail：ken.jim2@jim.titech.ac.jp

URL：http://www.iir.titech.ac.jp/museum/

〒152-8550

東京都目黒区大岡山2-12-1

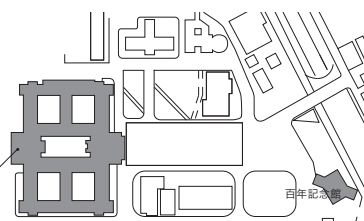
東急目黒線・大井町線大岡山駅下車

大岡山キャンパス内

《博物館》百年記念館

《資料館・公文書館》本館3階337号室

本館3階
337号室



〒226-8503

神奈川県横浜市緑区長津田町4259

東急田園都市線すずかけ台駅下車

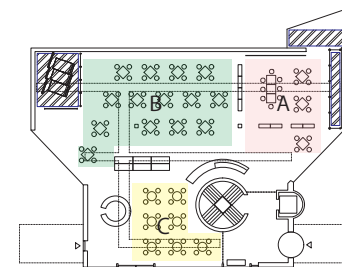
すずかけ台キャンパス内S1棟1階



ラーニング&インフォメーション・commons(1F/T-POT) おすすめツール紹介

「場所」×「人」をつなぐ便利なツールが充実！

AからCまでの3ゾーンからなる開放的なT-POTは、学生や教職員が学修や授業、ミーティング、ワークショップなど多様にご使用いただくことができます。また企画展示なども開催しています。広報棚には大学内外の情報誌を常置しておりご自由にお持ち帰りできます。



①ホワイトウォール(幅約22m)

Bゾーン

壁に直接文字を書いたり、ふせんなどを貼り付けて使用できる壁です。マグネットも使用でき、ディスカッションやグループ作業、セミナー等に最適です。
関連備品：ホワイトボードマーカー（4色）、拭き取り用クロス等



②プロジェクター

Bゾーン

（コミュニケーションツール）
ホワイトウォールに最大5台同時に投影できる、移動可能なプロジェクターです。プレゼンテーション等に最適です。
ツール内備品：HDMIケーブル、VGAケーブル、Macディスプレイポート→HDMI変換コネクタ、レーザーポインター、延長コード等



③可動式電子黒板

A / B / Cゾーン

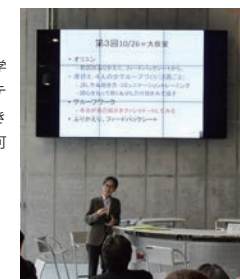
専用タッチペンで自由に文字や図を描くことができます。またPCに接続するとモニターとしても使用できます。
ツール内備品：HDMIケーブル、VGAケーブル、Macディスプレイポート→HDMI変換コネクタ、USBケーブル等



④ウォールビジョン

Cゾーン

壁付けされたウォールビジョンは学内情報や、学内テレビ会議システムを利用したイベントの放映ができます。PC等からの出力・放映も可能です。



⑤可動棚

A / B / Cゾーン

授業やイベント等での荷物置きや、ゾーンを仕切るパーティションとしてもご利用いただけます。



スペース貸出の注意

- ・館内施設の利用は事前の申込が必要です。
- ・学外者が半数を占めた使用の場合は、1階の全面利用のみとさせていただきます。詳細は「利用案内」ページをご覧ください。
- ・上記の備品は施設内での使用に限定させていただきます。備品の学外貸出は行っておりません。

利用受付・問合せ

博物館ホームページ <http://www.cent.titech.ac.jp>

百年記念館会議室受付（博物館事務室）

TEL：03-5734-2098 / Mail：centjim@jim.titech.ac.jp



©2011-2019 Tokyo Tech Museum and Archives
Photographs by Tomio Ohashi (cover) ,
Kiyokazu Watanabe (p2, p5, p6, p7) , Hiroshi Ueda (p3)

 TokyoTech

東京工業大学
博物館

